

「弟子たちを変えた力、主イエスの復活」

ヨハネの福音書 21 : 18 - 19

April.20.2025

ヨハネの福音書 21 : 18 - 19 (パワポ)

Preface

「イエス・キリストを信じて、人ってそんなに変わらないよね」というようなことを聞いたことがありますでしょうか？

まあ間違っただけなくもない、ある面で合っているかのようにも思えます。

誰を見れば分かるのかと言いますと、私たち自身を見ても分かりますし、主イエス様の弟子たちを見ますと、よく分かります。

Part One

イエス様に3年間も従って行った。

寝食をともにし、すべてを捨てて、すべてをイエス様に向け、「イエス様を信じる」とついて行った、正に、言葉そのものの通りの「弟子」であった彼らでした。

ところが、彼らの姿を見ますと、そんなに大した者たちでないように見えてしまいます。

イエス様が十字架に架けられると知ると、逃げますし、「イエス様なんか知らない！」と否定しますし、その極みは、イエス様が天に上られるその直前まで、本当にイエス様と寝食をともにし、直接イエス様から御言葉を聞いた人たちなのだろうかと思ってしまうような突拍子もない、呆れるような質問をします。

「私たちの国イスラエルを復興・繁栄させて下さるのはいつですか？」と、尋ねるんです。

3年間イエス様に従いついて行ったのに、同床異夢、同じ床に枕を並べて寝ながらも、それぞれ違った夢を見ることのように、同じところに行き、同じ人に会い、同じことを行いながらも、イエス様とは考えも、思惑も違っていったということですよ。

母国イスラエルが再興し、繁栄し、盛んになり、イエス様が王となった時には、「私が左大臣、私は右大臣、私がNo.2、私はNo.3」と、誰が一番偉いのかというようなことを、イエス様が十字架に架かれる直前まで言い争っていました。

3年間イエス様と一緒にいても、そういうことは捨てられませんでしたし、むしろ、そういうことを叶えるために、叶うと思って、叶うことを期待してついて行って行っていました。

つまり、人そのものが、変わっていないということです。

「イエス様が天に上って行かれるその瞬間まで、弟子だと言われる人たちが、なんでそんな姿なんだろうか？」と思えてしまいますが、「果たしてイエス様は、そんな弟子たちをどう思っていたのだろうか」と考えてしまいます。

もちろん、愛しておられました。

愛しておられたからこそ、「心が鈍くて、言ったことすべてを信じられない者たち」と、変わらない彼らの姿を真つすぐにご指摘になりました。

「イスラエルを再興して下さるのはいつですか？」という質問に対して、イエス様は、「それは、あなたがたの知るところではありません。聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受け、私の証人となります」と、神の国の回復・繁栄について話されました。

でも弟子たちは、俗物、世間的な名誉や利益などに心奪われ、目がくらみ、イエス様が見ているところとは、違うところを見ていました。

変わらないんです。

人が変わらないんです。

Part Two

ところが、変わりました。

弟子たちが、変わりました。

ズルいと言いましょうか、卑怯と言いましょうか、臆病だった、そんな人だった人たちが、「強くあれ、雄々しくあれ、恐れてはならない」という主の御言葉通りの勇気ある人へと変えられています。

第一に、12弟子たちのほとんどが殉教しました。

イエス様のために、イエス様ゆえに、殉教していきました。

今日の聖書箇所、

ヨハネの福音書 21 : 18 - 19 (パウロ)

ペテロが殉教するということについてのイエス様の預言の言葉です。

「どのような死に方をもって、神の栄光を現すのか」、「ほかの人があなたに帯をして、望まないところに引いて行かれる」という死に方をもって、ペテロは神の栄光を現すというのです。

そんなことを望んで、すべてを捨ててイエス様について行ったわけではありませんでした。

「人をとる漁師」、本来そう意味ではありませんが、人からチャホヤされ、今よりもはるかに高い社会的地位になることをより多くの人々が認めてくれるだろうことを期待して、「えい、もういいや」と全てを捨ててついて行きました。

た。

ところが、イエス様はペテロに、「あなたは殉教の死を遂げ、神の栄光を現す」とお示しになりました。

この時のペテロにとっては、そんな死に方したくもないし、そんな死に方が栄光だなんて思ってもいなければ、思いたくもない思いだったと思います。

だってイエス様を信じ、従い、期待してついて行った理由と真逆のことなんですから。

ここで一つ私たち教えられることは、「私たちの死に方は、神の栄光に関わることである」ということです。

ペテロは、イエス様の預言通り殉教していきました。

しかも、喜んで、勇んで、誇りをもって、望みするしながら殉教していきました。

逆さ十字架につけられて殉教していったと言われていています。

「イエス様のことを三度も否定した自分のような者が、イエス様と同じように十字架に架けられて死んでいくのは恐れ多いことだから」と、「十字架を逆さにして欲しい」と願い出たと言われていています。

ペテロ以外の弟子たちも、そのほとんどが殉教したと言われており、殉教しなかったら弟子たちも、殉教に匹敵するような、殉教以上の苦難を通りました。

例えば、ヨハネの福音書や黙示録を書き残したヨハネは、黙示録に記録されています通り、90という年齢で、パトモスという島に島流しの刑に処されました。

あの弟子たちが、どのようにして、こんなにも変わったのかということですが。

正に、180度、人が変わりました。

イエス様の弟子だった3年間の彼らと、聖書の使徒の働きに出て来る使徒となった彼らとは、全くもって別人のようです。

使徒となつてからは、誰が上で、誰が下なのかなんていうことは一切考えることもなく、人そのものが変わりました。

何でそんなにも変わったのだろうか？

何があったのだろうか？ 何が起こったのだろうか？ ただ何となく変わったわけではないですよ。

二つの大きな事件がありました。

一つ目は、前回、エペソ書5：18の「酒ではなく、聖霊に満たされなさい」ということを学んだ時にも考えましたが、聖霊の満たし、聖霊のバプテスマです。

聖霊が臨み、聖霊に満たされた時、弟子たちは、新しく生まれ変えられました。

そして、二つ目の事件が、主イエス様の復活という出来事です。

聖霊のバプテスマを受けたということと同等に重要な事件が、死より復活された主イエス様に出会ったということですよね。

事実、聖霊のバプテスマは、主イエスの復活なくしては起こり得ないことでしたし、主イエスが復活されたことの証拠としての出来事でありました。

聖霊のバプテスマが弟子たちにもたらした最初の実りは、出会った復活のイエス様が、疑いようのない完全な事実であるということが分かったということです。

見ても見えない、聞いても聞こえない、触っても感じないところから、見た復活を見たまんま、聞いた復活を聞いたまんま、触った復活を触ったまんま、そのまま事実として知覚することが出来るようになった、これが聖霊のバプテスマによって与えられた大きな祝福のうちの一つですよ。

私たちは、見ずに主イエス様の復活を信じていますが、弟子たちは、イエス様の復活を目の当たりにしました。

復活したイエス様を肉眼で見、出会い、話し、触り、一緒にBBQしながら食事までしました。

復活されたイエス様と40日間過ごしました。

それが彼らを変えました。

イエス様の復活が事実であることを完全に信じられるから、世に対する欲が自然となくなり、ズルさと言いましょうか、卑怯さと言いましょうか、臆病さがなくなりました。

いま目に見えているこの世界ですべてを完結しようと、完結させようと、勝負を見ようとすることに意欲を出すことから、まだ肉眼では完全に見えてはいない神の国という、やがて消えて無くなる今という世界とは次元が全く違う確実なことに意欲が出るように変わりました。

主イエスの復活を完全に信じると、この世がすべてではないどころか、一過性のものに、掴みどころのない空しい風のようなものに過ぎないことが、肌身に感じられるようになりました。

世に対する見方が変わり、世に対する余裕が生まれ、人が、競争相手や批判する対象や、見下し、利用する物のようではなく、神の愛を受けている、キリストの救いに与るべき尊いと同時に、霊的に不憫で可哀そうな存在に思え、寛容でありたい思えるようになりました。

血肉のことに対する戦いの不毛さが見え、この世の流れを作っている暗闇の世界の支配者たち、悪霊との戦いを意識出来る者となりました。

Part Three

「縮み志向の日本人」という日本文化論の傑作と言われる本をご存知でしょうか。

1982年に刊行されてからベストセラーになった本でもあり、今でも売れ続け広く読まれている本です。

著者のイー・オリオンという方は、3年程前に亡くなりましたが、晩年、クリスチャンとなられ、色々と信仰のお証を残されました。

その残された証しの中に、イエス様の弟子たちが変わった理由についてお話しされたことがありました。

「イエス様の弟子たちが、まるで別人のように変わったのは、復活が事実であることを体験したからだと思います」と、「復活という事件が無ければ、人がそんなに変わる事なんかあり得ない」と仰っていました。

「ああ、確かにそうだな。復活には、それほどの力があるんだなあ」と、「本当に、真に、主イエス様の復活を完全に信じるならば、信じられるならば、人は、私たちは、弟子たちのように変わるんだろう」と思います。

イエス様に向かってどんなに、「主よ、主よ」と言ったところで、復活を信じられないならば、この世での結果が、利益が、盛んに暮らしていくことが全てでしょうから、必然と卑しくなるでしょうし、「欲張りになって、みつともない、醜い姿をさらしてしまうだろうなあ」と思うのです。

ひと月ほど前の礼拝で、「機会を十分に活かす」という説教をさせて頂きましたが、その説教の中で、牧師を引退された後、3つの癌にかかれた尊敬する牧師先生のお話しを致しました。

その先生が、ご自分が癌になって死を間近に感じるようになりますと、毎日配信しておられる説教の中で、しきりに「Beautiful Landing」という言葉を口にされるようになりました。

「Beautiful Landing」とは、飛行機の着陸、安全で美しい着陸を示す言葉です。

飛行機は、必ず地面に着くようになっていますが、突然地面に着くことを墜落と言います。

一方、徐々に高度を下げながら、安定して、安全に、美しく着陸することを「Beautiful Landing」と言います。

同じ地面に着くことでも、両者は、全くもって違いますよね。

ご自身癌になられて、死を間近に考えるようになりますと、「『ちゃんと死ななければ』と思うようになった」と仰るんです。

「飛行機が美しく、麗しく着陸するように、どうせ死ぬのだから、素敵に死ぬことは出来ないだろうか。せつかく、生涯イエス様を信じて生きて来たんだから、カッコよく見事に死ねないものだろうかと思うようになった」と仰るんです。

「イエス様のことを一生涯信じて、死ぬ時、怖くてガタガタ震えているとか、欲を張りながら、卑しく死にたくはない。もしそうならば、イエス様を信じている意味がないじゃないか」と仰るんです。

「確かにそうだなあ」と思います。

「死に打ち勝った」と、「わたしを信じる者は死んでも生きるのです」というイエス様のお言葉が、イエス・キリストを信じる信仰の最も大事な核ですよ。

イエス様を信じる者の死に方が、神の栄光を現すことが出来るのならば、それ以上の「Beautiful Landing」はないと思います。

私たちが世の中を生きて行く上で、「Beautiful Landing」の逆、醜い着陸「Ugly Landing」と言うのでしょうか、人生を醜く終えてしまい兼ねない要素が色々あると思いますが、この牧師先生は、「そうになってしまい兼ねない二つのことが心に引っかかる」と仰っていました。

一つ目が、欲張るとカッコ悪くなる、みつともなくなるということです。

人は、幼い子供の頃から少しづつ年を重ねるごとに出て来る欲、変な欲、老欲が出て来るというのです。

5歳の頃の欲よりも、10歳の頃の欲の方が醜い。

10歳の頃の欲よりも、20歳の頃の欲の方が醜い。

20歳の頃の欲よりも、50歳の頃の欲の方が醜い。

50歳の頃よりも、それ以上の年の欲の方が醜く、「みつともなくなる老欲が、人には誰にでもある」と言うんです。

「年とともに、時間の経過とともに、大きなことへの欲は、致し方なく諦めがついて来るようになるかもしれないけれども、小さなことに対する欲が、年とともに増し加わっていき、いつの間にか、小さなことへの欲が張ってしまい、多くの物を失ってしまうことがある」と、「もし、それがなければ、Beautiful landing 出来るだろう」と言っておられました。

二つ目は、卑怯さですね。意地悪な心、ズルい賢い気持ちです。

勇気は人を美しくするけれども、卑怯さや意地悪やズルさは、人を醜くしてしまうと言います。

確かに、もし私たちが、小さなことに欲張らず、人に対して意地悪でなく、卑怯な思いが無ければ、誰でも「Beautiful Landing」が出来るでしょう。

ところがどっこい、どうやって私たちが、欲張らないでいることが出来るでしょうか？

どうやったら、意地悪でなく、ズルくなく、卑怯でないようにいられるでしょうか？

「Beautiful Landing」と言葉で言うのは簡単ですが、こんな罪人なのに、食

べてはいけない善悪の知識の木からその実を取って食べてしまった、欲の原石、ズルさ意地悪さの泉をこの内にはらんでいる私たち人間が、ゴリアテのように強く立ちはだかっているこの世の中に対して、何の力もない弱い一人間でしかない私たちが、どうしたら、欲張らずにいられ、意地悪でなくいられるでしょうか？

どうしたって、欲を張らずにはいられず、意地悪を發揮せずにはいられない。

妥協して、卑怯も方便のように使い、バレたら辱めを受けるような私たちが、どうすれば変わるのでしょうか？

Part Four

イエス様の弟子たちは、普通の人間だったんだと思います。

普通に欲張りで、普通に意地悪で、普通にズルくて、普通に人は間違っているけど自分は正しくて、普通に人よりも自分が上に立ちたいと思うし、普通に自分には機嫌よく人には不機嫌で、普通に人の悲しみよりも自分の悲しみの方が悲しい出来事であり、普通に物欲が満たされないことに不安を覚え、普通に神の御思いに生きることよりも、自分の思いを叶えることを目的に神を信じ、普通に私の願い事は神の願い事であるはずだと思う、至って普通の罪人だったと思います。

イエス様を信じてもお、イエス様に従って行ってもなお、イエス様にお仕えすると献身生活を送っていてもなお、大したことの無い一罪人でした。

そんな弟子たちが、変わりました。

主イエスの復活が、彼らを変えました。

復活の事実を事実として知り、変わりました。

イエス様の復活を迷いなく、淀みなく、一切の疑いなく信じたから、信じられたら、人が変わりました。

始めに「イエス様を信じてお、人ってそんなに変わらない」と言いましたが、それは、実のところ、イエス様を信じていないから、本当に信じていないから、イエス様の「復活」を本当に信じていないから、変わっていないということになるのでしょう。

牧師歴50年の先程の牧師先生は、癌になられてから、このことを事新たにお気づきになったと、祈りが変わったそうです。

「妥協して、卑怯で、バレたら辱めを受けると怯えていた弟子たちが、復活ゆえに変わったのですから、口先だけでなく、私が本当に主イエス様の復活を信じる者にして下さい。

復活を信じさせてください。復活に対して、疑いなき者にして下さい」と祈るようになられたそうです。

私自身振り返っても、全く同じように、主イエス様の復活が生活の隅々に、全身全霊の隅々に至るまで行き渡っていないから、怒りがこみ上げ、不安に駆られ、既にあるものに感謝を抱くよりも無いものに不満を抱いてしまい、なんやかんやこの世にあって勝負を付けなくちゃと、あたかもこの目に見える世界が全てであるかのように振る舞ってしまい、イエス様よりも人を、イエス様から目を離し人を見て抱く感情にコントロールされ、自分の正しさを示せたら気持ちよく、自分の正しさを示せなかったら腹が立つ。

この世の血肉に対する戦いに心奪われ、この世の血肉に対する祈りばかり献げ、復活が現実の生き様に、考えに、生き方に行き渡っていない自分自身を思い知らされたような気が致しました。

Conclusion

まことに、まことに、イエス様の復活を信じるならば、人は変わります。

主イエス様の復活が、弟子たちを使徒に変えたように、本当にイエス様の復活を信じるならば、人は変わります。

イエス様が、いのちを捨てるほどに、大切に大切にもてなした弟子たちの実例を通して、今を生きる私たちに、人が変わることを教えて下さっています。

私たちが欲を張るべきところは、復活信仰です。

主イエス様の復活を真に信じられるところにこそ、欲を張るべきでしょう。

「主よ、どうか、私に主イエス様の復活を淀みなく、一点の曇りなく、信じさせてください。信じる者として下さい。信じられるようにして下さい」と祈っていきいたいと思うのです。

さすれば使徒ペテロのように、欲張る必要のないものに欲張り、卑しかったところから、「Beautiful Landing」、その死に方をもって神の栄光を現す、神の目に美しく美しく人生を終わらせ、主イエス様の復活に与ることが出来るのだと思います。

「からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず」と告白するたびに、その告白そのものが私たちの人生を表し、私たちの肉であり、血であり、私たちの人生の告白そのものとなっていけたら、「幸いだなあ」と思いますよね。

みんな揃って、「Beautiful Landing」出来たら、それに勝る喜びはありません。

お祈りいたします。

祈り：主なる神さま、生涯イエス様を信じて、恥ずかしく、卑しく、死んでしまうかもしれないことを恐れます。

決してそうならないように、主にあって勇気ある人として、美しく、美しく、一生を終えられるようにして下さい。

馬鹿らしく欲張って、人生をみっともなく終えないように、主よ、私たちの

人生を掴んでいて下さい。

イエス様の弟子たちが変わり、別人になりました。

イエス様を否定し、逃げて行った人たちが、イエス様のゆえにみな殉教し、イエス様ゆえに苦難にあうことを避けることなく出て行く人になり、私の立場、私の意見に欲を張っていた人たちが、欲なく、イエス様のために犠牲を払い、身を献げる人になりました。

主よ、それは、あなたの復活を目の当たりにしたからです。

復活を口でのみ告白するのではなく、全身全霊をかけて信じられるようにして下さい、復活信仰ゆえに、卑しかった人たちが勇気ある人となり、欲を張らず、聖とされた者として、美しく、麗しく生きられる人となりますよう助けてください。

弟子たちを変えた力こそ、復活です。

復活の力によって、私たちをも、どうか変えて下さい。

復活の救い主、イエス様の御名によってお祈りいたします。

祝祷：「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」（ヨハネの福音書 11：25）